

私たちが考える社会貢献 私たちが果たす社会的責任



あなたと私たちの相互にメリットがある。 そこに「おたがいさま」の関係が生まれ、 長く続く“笑顔の輪”が広がると考えます。



株式会社 大木家
代表取締役社長 大木 伸浩

今、企業の社会貢献の重要性が言われています。これまでのように利益を上げるだけではなく、事業以外の面でも積極的に社会のためになる活動することが求められ、またそれがその企業を評価する一つの基準にもなっているのです。例えば消費者が商品を購入するときに、価格も品質も同じであれば、社会貢献に積極的に取り組んでいる企業のほうを選ぶ、というようなことです。大企業のみならず中小企業でも、環境への取り組みや福祉への協力など様々な形での社会貢献活動を展開し始めています。もちろん私たちオーギヤグループでも様々な形での社会貢献をしています。が、実は私たちの社会貢献のスタイルはちょっと違います。一般によくある社会貢献はどちらかというと貢献する側が一方的に提供するスタイルです。私たちのそれは一言でいえば「おたがいさま」の関係です。

言い換えればオーギヤグループにも相手方にも双方にメリットのあるやり方（今はやりのいい方ではWinWinの関係）での社会貢献です。こうした「よそとはちょっと違う」スタイルの社会貢献ができるということは、私たちが日々取り組んでいる仕事自体が将来に向けての大きな可能性を持ったものだということでもあります。この冊子では、そうしたちょっとユニークな社会貢献活動を紹介しています。

しかし、ここで勘違いしないよう気をつけてほしいことがあります。それは「企業としての一番の社会貢献は、自分たちの事業を誠実におこなうこと」だということです。企業が自分たち本来のビジネスとして売っているものや提供しているサービスが消費者の信頼を裏切らない、ということです。パチンコ店で言えば法令を遵守した公正な営業であり、チャオなら安心して召し上がっていただけるおいしい食事を提供する、ということです。いくら多額のお金を福祉のために寄付したり、従業員がボランティア活動に参加したりしたとしても、本業でお客様を裏切るといったような商売をしていたならば、それは本末転倒です。

この冊子を作った理由は2つあります。一つはオーギヤグループとしての社会貢献への取り組みを知って、理解してもらうこと、この取り組みに対して誇りを持ってもらうことです。二つめは、これを読んで自分たちの職場や個人でもできる社会貢献への取り組みを始めるきっかけとしてほしい、ということです。社会貢献というのは本社がやるだけのものでも社長がやるだけのものでもありません。一人一人が意識を持って取り組むものです。たとえば通勤中に落ちていたゴミを拾う、森林保全ボランティアのイベントに参加する、駐車場の車いす利用者用スペースには止めない、等々、一人でも今すぐ始められることはいくつもあります。一人でできないことでも職場で提案して実現したり、本社に提言して実現したりすることでもできるでしょう。重要なのはまずそうした考え方を習慣化することです。

オーギヤグループで働く一人ひとりがこのような考え方をもって仕事に臨み、日常生活を送るようになれば、私たち自身の評価も高まり、ひいては会社としても本業の利益だけでは得られない価値を高めることになります。この冊子が新しい時代のオーギヤをみんなで作り上げるための一石になることを切に希望しています。

総合アミューズメントグループとして 私たちは社会的責任を果たしていきます

様々なお客様とのふれあいが、全ての社会的責任を果たす手がかりです。

オーギヤは総合アミューズメントグループとして幅広い年齢層の方々をお客様にお迎えします。都市部を中心に多数の店舗を構え、たくさんのお客様と接しています。

私たちがお客様に提供するのには、生活必需品ではありません。「楽しさ」「快適さ」「安心」「憩い」といった、むしろ生活必需品だけでは満たしきれない生活の潤いといえるかもしれません。これらの提供に必要なのは事務的な効率の良さだけでははかれない、優しさや礼節、正義感といった目先の損得を超えたところでお客様が満足されたときに、オーギヤは社会を構成する一員としての責任を果たしたのだと考えて良いと思います。

私たちは、お客様の満足を目指して活動しています。



託児ルームの設置

地域のNPO活動への貢献とお客様の安全・快適を両立

全てのお客様に安全・快適に遊んでいただく環境を用意する責任があります。

保護者がパチンコに夢中になり、車に残された子どもが熱中症で死亡する事故が後を絶ちません。私たちにはこうした事故を未然に防ぐ環境を作るため、2000年よりその方法を模索し始めました。小さな子どもを持つお母さんでも安心して遊べる環境を整える責任が、私たちにはあります。

子育て支援NPOの存在を知り、協力を呼びかける

店舗に託児所を併設してはどうか。そこでこれに関する情報を収集するうちに、活動スペースの確保に苦慮するNPOの存在を知りました。店舗に託児スペースを設けて無償で使用してもらえば、NPOは活動コストを軽減できます。この引き替えに店舗利用のお客様には割引価格で、託児所サービスを利用できるようにしてもらえばお客様も安心して楽しめます。オーギヤはこれまで以上にお客様に満足いただき、イメージアップや同業者との差別化も期待できます。全員がメリットを共有できる状態が期待できると考えました。

このプランを持ちかけた当初は、NPO内部にパチンコ屋に対する拒否反応が見られました。まずはこの誤解を解くことからスタートです。やがて、遊技中の事故を防ぐためにオーギヤはお子様連れの入店を断るなどしてきた一連の姿勢と、安全に遊技できる環境を作りたいと願う態度に理解をいただけました。こうして、託児所運用専門業者と2つのNPO団体から協力を得て、計6店舗に託児ルームを設けています。
(2019年現在、NPOママネットの2店舗のみ)



NPOママネットが運営するキッズママ西尾店

パチンコ店に託児施設
安城

西尾の「NPOママネット」

新築開業を待つパチンコ客たちが待つ中、安城市の民間非営利団体「NPOママネット」の託児ルームがオープンした。約100平方メートルのスペースがあり、別荘のバチンコ店隣で、開業日の午前九時から午後六時まで、六か月から小学校低学年までの子どもを無料で預かる。保育士が幼稚園教諭などの資格を持つ女性スタッフが常駐する。料金はパチンコ客のみ。ママネットがパチンコ店で運営するのは二年前に開設した西尾市、昨年の半田市に続いて三カ所目。もと西尾市内の寺を借りて託児ルームを開き、育児で職場を離れた主婦らの社会参加に力を入れた。パチンコ経営の「大木家」(豊橋市)から連携の話をかけ、開設や光熱費は店が負担し、赤字になれば、ママネットは年間三十分、三十分以内で利用できるのが特徴。ママネットがパチンコ店で運営するのは二年前に開設した西尾市、昨年の半田市に続いて三カ所目。もと西尾市内の寺を借りて託児ルームを開き、育児で職場を離れた主婦らの社会参加に力を入れた。パチンコ経営の「大木家」(豊橋市)から連携の話をかけ、開設や光熱費は店が負担し、赤字になれば、ママネットは年間三十分、三十分以内で利用できるのが特徴。

保育士有資格者ら常駐 お客以外も利用OK

ママネット代表の大河内泰樹さん(左)は「西尾店」ができた当初は、場所に対する引けがあったが、実際、一生懸命に取り組んで、一般利用でも四割近くは利用するようになった。利用時間外の営業時間に合わせて「午後六時までは四時間以内」としているのに、母親でもあるスタッフの思いが込められている。問い合わせは、キッズ・ママ安城店 0566(2)23341へ。(付録 旭)

▲多くのメディアにも取り上げられ、相互メリットに基づいた活動が評価されました。



NPO ママネットとは……

2000年に西尾市で発足。お母さんをネットワークで結び情報共有を図る。活動は、託児、保育士による育児相談、外国籍児童の子育て支援、女性の勤労支援事業

HP アドレス: <http://www.npomama.net/>

バリアフリー店舗設計

利用者の拡大とお客様の快適性向上の両立

交通の便が良く、老若男女を問わずに楽しめるアミューズメント
だからこそその責任を果たす

交通の便の良い場所に店舗があり、高い身体的能力を必要とせず、怪我や事故の心配もなく老若男女問わずに楽しめる。パチンコは室内型アミューズメントとして大きな可能性を秘めています。パチンコ店がバリアフリー環境を整えることによって、お年寄りや身体障がい者の方でも楽しい時間を過ごすことができるはずです。利用者の誰もがストレスを感じない『誰にも優しい店作り』は、私たちの責任であると考えています。

店内の椅子を着脱式に変更【2004 年 4 月～】

各店の改装時に併せてレイアウトを変更し、車いす利用の方にも存分に遊んでいただけるお店を増やしています。フロアに設置された椅子の大部分が取外し可能で、自由に台を選べます。



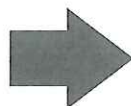
▲フロアの椅子は着脱でき、車いすのお客様にも好きな台を選んでいただけます。

メダルすくい器の開発【2006 年 4 月～】

メダルを掴みにくいとお困りのお客様が、自作のメダルすくい器を使われているのを見たのがきっかけでした。車いすを利用する方の中には手の不自由な方も多いとのことで、「メダル 1 枚 20 円。落とすと痛いんですよ」の言葉に応えるべく、メダルすくい器を開発しグループ内の多くのバリアフリー店舗に設置、無料貸出をしています。



▲お客様が自作されたメダルすくい器をお借りすることから、この開発が始まりました。



▲メダルすくい器の使いやすさをお客様と相談しながら、調整を繰り返しました。

豊橋駅前店に多目的トイレを設置

ホールのお客様以外にも利用を呼びかける【2007年4月～】

36万都市・豊橋市の駅前周辺には、路面に面していて、自由に使える車いすトイレがありませんでした。車いすのお客様からの要望もあり「オーギヤ豊橋駅前店」の増築工事に合わせ多目的トイレを新設しました。店舗利用者以外の方にも使いやすいよう、店舗を通らずに直接入室できる入口を用意。車いすの方に利用しやすい広さの室内には、オムツ換えのベッドも備えました。



▲多目的トイレのサインは通りから見やすく表示されている



▲店舗内を通らずに直接利用できる

市民グループから見たオーギヤの取り組み

～車いすを楽しむ会 原田さん～

「車いすを利用する障がい者にとって、周囲に迷惑を掛けずに行動できることが一番重要な点となります。オーギヤでの多目的トイレ設置をはじめ、各店舗の改装時にバリアフリー化する際には意見を取り入れてもらっています。手すりの位置や小さな棚の有無等、実際の使い勝手が伴うようにしていただけるように工夫してもらっているのありがたいですね。「声をかけられたときに初めてお手伝いする」、それが車いすを利用する方へのマナーなんです。だから逆に言うと、声をかけやすく入店しやすいお店の雰囲気を持っていることは良いと思います。」



本業以外でも、社員の行う社会貢献活動を 応援できる制度を作りました。

ボランティア休暇制度

オーギヤグループの正社員が、会社の認めた非営利ボランティア活動・地域社会貢献・奉仕活動に従事するのを応援する制度です。この休暇制度の目的は業務と直接関係のない活動を通して、企業人として果たすべき社会的責任を体感する機会を提供することにあります。社内にはオーギヤグループが推奨するボランティア活動が通知されます。

ボランティア休暇制度概要

- オーギヤグループの正社員が、会社の認めた非営利のボランティア活動、地域社会への貢献、奉仕活動に従事する場合、勤続年数に応じた休暇（有給）が、年次有給休暇とは別に最大5日間支給されます。
（就業規則第38条 平成17年に制定）

■ボランティア休暇利用の手順

- ①所属長（各店役職者）の許可を得てグループウェアのワークフロー／ボランティア休暇申請に必要事項を入力し申請
- ②承認されたら（ワークフローに画面表示、または役職者に確認）、N I コラボ／ライブラリ／ボランティア休暇申請書（兼）証明書を印刷し必要事項を記入
- ③ボランティア参加時に持参したボランティア休暇申請書（兼）証明書にサインしてもらい、活動終了時に所属長に速やかに提出

- ボランティア休暇の認定基準……非営利・無報酬の活動である（営利目的の活動や有償ボランティアは認められません）／公益性が高い（特定のエリア・対象に限定される活動は公共性が低く認定されません）／オーギヤグループが推奨するボランティア活動（不定期告知）は承認されます／活動時間の目安はおよそ3時間以上とし、1日単位で休暇が支給されます／公休日のボランティアは対象外ですが、パチンコ店の新台入替の店休日と重なる場合は振替休暇が認められます

問い合わせ先：本社事務所 0532-53-3776

社外の様々な社会貢献活動にも 相互メリットの視点から選択し参加しています。

オーギヤの森づくり

2009年から毎年行われている森林整備活動です。東三河地域の森林の保全、育成などに取り組む「NPO法人穂の国森づくりの会」の協力のもとに実施されています。特徴は一般の方にも参加してもらうこと。パチンコ店のお客様から地元高校生にまで活動の輪が広がっています。作業当日は、森林を取り巻く環境や手入れの必要性について説明を受け、参加者全員で除伐作業を行います。

こうした活動が認められ、2016年度社会貢献大賞・組合員ホール部門・優秀賞を受賞しました。

- ・第1回【2009年11月8日】愛知県民の森にて、森林整備作業（間伐）体験及び森林散策
 - ・第2回【2010年11月21日】愛知県豊橋市嵩山山地にて、森林整備作業（間伐）体験及び森林観察
 - ・第3回【2011年11月26日】愛知県豊橋市大岩町内森林にて、森林整備作業（除伐）体験他
- ※以降、同フィールドにて森林整備作業継続中



▲指導員から森林整備の必要性や作業内容の説明を聞きます。



▲除伐作業とは育てたい木の生育を妨げる木を切ること。こうすることで地面にも太陽の光が当たり、健全な森になる。



▲参加者全員で記念撮影。



▲取り組みが認められ、全日本社会貢献団体機構の選定する2016年度社会貢献大賞・優秀賞を受賞しました。

認知症理解推進への取り組み

1. 認知症サポーターの養成

「誰でも安心して遊べる店作り」を理念に掲げ、2012年より認知症サポーター養成講座を従業員が受講し、認知症についての理解を深め、実務に取り入れています。

2014年からは社内講師5人を設け、自社で養成講座を開催。現在約9割以上の社員が「認知症サポーター」となっています。



認知症サポーターとは……

NPO法人地域ケア政策ネットワーク・全国キャラバンメイト連絡協議会が実施する認知症サポーター養成講座を受講・終了すると認定される。認知症を正しく理解し、認知症の本人はもとより、その家族の良き理解者としての役割を果たす。

2. 「RUN伴」への参加、協賛

「RUN伴」とは、認知症の人々とともに生きるまちづくりを目指し、患者や家族、地域住民らが全国でタスキを繋ぎながら走る認知症啓発イベントです。その趣旨に賛同したオーギヤ彦根店の従業員をはじめとするメンバーが、2014年に参加したのをきっかけに、その後、愛知県内でも行われるようになったため、毎年中心メンバーとして参加。企業として協賛もしています。



RUN伴とは……

NPO法人認知症フレンドシップクラブが主催する認知症の啓発イベント。あらかじめ設定したゴールまで当事者や家族、支援者、一般市民がタスキリレーをして走るもの。誰もが暮らしやすい地域づくりを推進する活動。

24時間テレビ

2000年8月から「24時間テレビ」へのスポンサー協力を行ったのがきっかけ。今では草の根チャリティーネットワークに参加し、各店舗には常時募金箱が設置されています。番組放送当日には各店舗スタッフが、購入した“チャリティシャツ”を着用して業務に当たり、募金を呼びかけます。



JICA「世界の笑顔のために」プログラム

きっかけは2006年に会社の野球チームがユニフォームを新調したことでした。費用負担を社長に交渉したところ、古いユニフォームをJICAに寄付する提案をいただきました。ユニフォームだけではメンバー内で他にも使っていないスポーツ用品を集め、併せてJICAを通じて開発途上国へ物品提供したところ、世界中からたくさんの感謝状が届いたのです。2年目には物品提供を会社に広く呼びかけ、この他に豊橋市の市民グループ「車いすを楽しむ会」様より故障していた車いすを修理の上提供していただきました。車いすが贈られたホンジェラスの施設からは心温まる感謝状をいただきました。

〈参加実績〉

- 2006年 野球用品(ユニフォーム、スパイク、金属バット)／サッカースパイク／ソフトボール
- 2007年 車いす／野球グローブ／少年野球スパイク／ソフトボール
- 2008年 野球グローブ／野球金属バット
- 2009年 車いす／野球グローブ／サッカーボール
- 2010年 野球グローブ／はっぴ
- 2011年 野球グローブ
- 2012年 茶道用茶碗
- 2013年 空手用品(ミット、グローブ、すねあて)／野球バット／軟式野球ボール
- 2014年 水泳ビート板／テニスラケット
- 2015年 算数セット
- 2016年 野球グローブ



▲野球用品が届き喜び子どもたち



▲ホンジェラスから届いた感謝状

MOTOGP2007日本グランプリ

オーギヤ西尾店に勤務するスタッフから、アルバイトで同店に勤務するスタッフのオートバイレースをスポンサーとして応援して欲しいという依頼を受けました。

不登校に苦しんだ彼は、これを自力で克服してモトGP世界選手権シリーズ日本グランプリへの参戦を目指していました。世界に挑戦するチャンスに、バイト代を全額充てて臨む厳しいレースの現状がありました。

その活動を社会参加行為と捉えて協賛金を出資、レース車両とチームポロシャツにロゴマークを掲載して全社を挙げて応援しました。



▲レース車両はOG IYAのロゴを載せて疾走。



▲水野那由太くんは雨の中激走を見せ、見事20位完走。



▲オリジナルポロシャツ



▲ステッカーやフェイスタオルなどのグッズも販売、収益をレース資金に充てていた。

時速230^{キロ} 若武者挑む

中学生の時、不登校・苦しい生活が「世界を目指す」となってきた。オトバイの「モトGP」世界選手権シリーズ「モト水戸・ウツリ」(栃木県で二十一日に開幕。GP二・五エクスに愛知県・色町の水野加出・山内ゆたか、さんどが初参戦する)。一度は人の提折を味った水野さん。好きなバイクに手を触れたいし、速く走りたい、という目的が自分を変えた、と振り返る。

不登校克服 モトGPへ

三河湾を走るモト水戸。中学一年から不登校。一もするが夏あけの土曜で、レース仕様の愛に、毎日から朝きょう。日々、友に学校へ行くと思っても、全く体が動かない。でも、親に不登校のサケルに連れられて、部屋に閉じこもり、ゲも、変わる。定

小学校の時、成績優秀だったが、長年の水野さんは、同年代になつては、という両親の期待が精神的な重なりになった。

モトGP世界選手権シリーズ「モト水戸・ウツリ」に初参戦する水野さん。愛知県・色町(写真一画目)



愛知・一色の水野さん「夢は世界王者」

大抵、てりきふドラ
イセスと略し、レス
オニ、五町目市販車等
を襲撃、車内を空にして
初獲物、切て大に結
められ、誘致を知らず、
レ、舊用車間開き
戸方、パチコ店の
店員、バチ代開、同
店の偽金首飾内を盗
て、工面して、昨年は
、世界界隈へ、国境
イセスに密した、
直線の、最時速は
百十、平時速は
百十、四十五、二
では、は絶ない、昨
年の初では、左足で
入替し、金庫を
盗けし、身長六二
ど、体小、胸大、そ
れを、たて、成の、コナ
リ、シヤ、武闘、
、世界界隈では、バ
イ、ト、内、に、ル、た
い、村、来、夢、は、世
界、と、對、せ、。母、の
首、と、は、。愛、情、を、
け、な、す、て、は、い、
、と、ち、が、情、緒、を、
と、づ、け、い、と、見、つ、

▲2007年9月5日 中日新聞夕刊

地域と繋がり、地域を盛り上げる取り組み

1. とよはしまちなかスロータウン映画祭

シャッターを下ろした空き店舗が散見される豊橋市の“まちなか”を、映画で活性化しようと2002年に始まったイベントに協力しています。実行委員会のメンバーでもあった社長が台の映画好きだということもあって、協力はスポンサー参加にとどまりません。“まちなか”に店舗を構えるスパゲッ亭チャオ本店では、公開される映画にちなんだコラボメニューを用意してイベントの盛り上がりには花を添えます。



▲スパゲッ亭チャオ本店で用意したコラボレーションメニュー



▲映画祭会場の展示ブース

2. チェンソーアート競技大会 in 東栄

地域性を活かした町おこしを応援する観点から、2005年の大会より協賛しています。2007年には国際大会として国内外の著名な競技者が招待されました。レベルの高い大会は同時に、開催地である北設楽郡東栄町に産する間伐材の利用促進を呼びかけるものであり、大会ではバイオ燃料の使用を義務づけて環境への配慮を呼びかけています。地域密着の運営が評価され、(財)地域活性化センターより、第11回ふるさとイベント大賞を受賞しました。



▲会場に貼り出される広告



▲出場選手の鮮やかなカービング

環境問題に対する取り組み

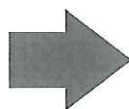
オーギヤのエコ活動

オーギヤは未来の地球のために、微力ながら今できるエコ活動を行っています。

事業活動におけるCO₂排出量を削減します



▲スパゲッティチャオ本店LED照明設置前



▲同店LED照明設置後

◎店舗照明LED化

(本社事務所社屋、オーギヤ豊川蔵子店、ゴルフクラブハーバービュー他)

◎高効率エアコン設置

(オーギヤWO、オーギヤ豊橋駅前店、オーギヤDO他)



▲豊橋市内ジャンボエンチョー屋上太陽光発電パネル



▲豊橋市神野新田町太陽光発電パネル

◎太陽光発電設備

(豊橋市内3ヶ所他、計11ヶ所にて、合計4,400kwの発電設備)

今後も照明LED化、高効率エアコン設置を進め、CO₂の削減に努めます。

私たちができる、一人一人の気遣い

- ・ 営業前後の照明は、必要箇所以外点灯しない
- ・ バックヤード、事務所の不在時の消灯、エアコンOFFの推進
- ・ エアコン、冷蔵庫に係わるフロン排出抑制法の遵守に努める

震災復興支援

2011年3月11日に発生した東日本大震災により、太平洋に面した三陸沿岸を中心に多くの地域で甚大な被害が発生しました。これを受けてオーギヤグループでは全店舗で義援金募金を開始。その後も様々な形で復興に向けた支援活動を行っています。

義援金募金

被災地への支援を大々的に告知し、支援活動の周知を図るため「頑張ろう日本」を大きくアピール。のぼり旗、店内ポスターに加え、スタッフも同じデザインのTシャツを着用し、義援金募金などの支援に対する理解を求めました。震災直後から行われた義援金募金は2011年5月まで続けられ、これにオーギヤグループからの義援金を加え、被災地に送られました。



ボランティア隊派遣

現地での人的支援を行うため、オーギヤグループでは社内外から参加者を募集し、震災ボランティア隊を結成、宮城県東松島市へ派遣しました。6月20日～23日、7月4日～7日の2回に分けて計21名の参加者が現地ボランティアセンター協力の下、ボランティア活動を行いました。

第1班

【活動場所】
宮城県東松島市大曲地区
【参加者】
従業員6名、一般参加1名
【活動内容】
主に民家の泥出し



第2班

【活動場所】※7月4日のみ宮城県岩沼市
宮城県東松島市大曲地区

【参加者】

従業員10名、一般参加4名

【活動内容】

主に側溝の泥出し



～参加者の感想～

- ・今回感じたことは、テレビやインターネットの情報をいくら調べたからといって実際に被災地に行くと全く通用しないということ。臭いや現地の方との会話など、より被災地の現状を知ることができました。少しでも多くの方に現地を知っていただきたいと思います。機会があれば観光でもいいのでぜひ東北へ行ってみてください。
- ・震災から3ヶ月も経つのに、まだ手もつけられていない状況を見て、すごくショックで涙がでてきました。被災地の方の話を聞かせてもらったりして想像もできないような怖さを感じました。「少しでも早く元通りになるといいですね」という問いかけに「生きてるだけで」という言葉に感動しました。生きてることの大切さを改めて実感しました。
- ・今回のボランティアでは自分たちの価値観を変える現地の被害をたくさん目の当たりにした。それを受けて、自分たちにできることをこれからも被災地のためにしていきたいと強く思った。
- ・ハッキリ言って何もしてあげられなかったと思う。ボランティアに参加したという自己満足で終わらせてはダメだと思った。もっと長い期間、定期的にボランティアを派遣してはどうか？

東北地方の商品を販売、活用

被災地の活性化と復興を応援するため、東北地方の名産品をパチンコ店の景品として販売。メディアでも取り上げられていた「南部美人」などの日本酒をはじめ食料品を主に取り扱い、売上の一部を義援金として寄付しました。スパゲッ亭チャオ本店では東北の食材を使ったメニューを考案し、販売。こちらも売上の一部を義援金として寄付しました。



他の支援団体との連携

オーギャグループでは、他団体が行う被災地支援活動にも協力しています。

特定非営利活動法人 日本ホスピタル・クラウン協会



クラウン（道化師）が病院へ行って入院中の子どもたちに対して行う活動がホスピタル・クラウン。全国の病院の子どもたちに笑顔を届けている。東日本大震災後は、東北の各地でテントサーカスを行い、楽しいパフォーマンスで被災者に笑顔を届けている。東北以外でも熊本地震被災地、九州北部豪雨で被害のあった福岡県朝倉市なども訪問している。



一般社団法人 aichikara



学生と社会人が一緒に高めあいながら、東日本大震災で被害を受けた人たちが一日でも早心から復興することができるように、常に何が必要なのかを考え、それを実現していく復興支援団体として生まれた。主には、震災によって自由に外で遊べなくなった福島県の子どもたちを招待し、キャンプを行うなどの活動を続けている。

災害復興支援活動

オーギャグループでは、他にも以下の災害に対し、支援活動を行いました。

- ・ 2014年8月 広島豪雨災害に対し義援金
- ・ 2016年4月 熊本地震被災地へ義援金、募金活動
- ・ 2017年7月 九州北部豪雨被災地へ義援金
- ・ 2018年7月 西日本豪雨災害被災地へ義援金